

コウガの森・共和から

園長 小林 崇

散歩から

園庭の木々の葉も北風とともに落葉し始め、冬の足音が感じられるようになりました。園では生活発表会の開催を控え、日に日に元気な歌声や綺麗な音楽が聞こえる中、来年度の入園の見学や新しくコウガの森・共和の先生になる学生が訪れるなど、少しずつ平成30年度に向けた準備が動き出しています。

今年度は幼保連携型認定こども園への移行、園長の交替、新しいイベントの開催など、園にとっては「変化」の年でした。12月末は保護者アンケートの回答のお願いをさせていただきます。意見や要望などをご記入ください。

さて、今年変えた試みとして園外散歩遠足があります。例年、公立保育所から引き継いだ行事として園外散歩遠足を実施していたのですが、今年はチャレンジウォーキングという行事として11月27日に実施しました。

例年は園バスを使った行事でしたが、チャレンジウォーキングでは①園を起点に自分の足で歩ききる・②周辺環境に興味をもつことを目的に、さくら組からばら組までが園の周辺の散策をしました。

ウォークラリー形式の散歩の中では「鳥居があった」、「あそこが俺の家」、「ここは小学生になったら通るんだ」、「これは南天の木だよ」、「歩いてきたらみかんの木が何個あった」、「神社は2回手を叩くんだ」など社会や自然環境に対する興味の気持ちを示したり、園児どうしの教えあいが見られました。また、農家のお兄さんや住民の方に自分から挨拶をする、手をつないだ年少児が車道側に来たらさりげなく持ち手を交替する姿など、それぞれの園児たちに立派な態度が見られたことに成長を感じました。

つくし組からすみれ組までは今後テーマを変えての実施になりますが、以上児も地域を知る散歩を継続して行なっていきたいと思えます。また、他に地域を知る・興味をもつ試みとして、発表会後には年長児が地元の業者さんに復刻してもらった「こだまカルタ」で遊びます。児玉で育ったお父さんお母さんが昔遊んだカルタで、地域の環境を知り、新しい興味をもって欲しいと考えています。

今回のチャレンジウォーキングではさくら組からばら組の合同だったため歩く距離も4キロ程度でしたが、園児の中には「疲れた」という声も聞かれました。月曜日開催だったことも影響しているとは思いますが、「疲れた」という声が聞こえたのは、「給食の食べが悪い」「体重の増加に伸び悩みがある」「昼間のあくびが多い」園児という傾向があったように感じています。

園では後期の健康診断を進めているところです。よく食べ、よく動き、よく寝るといった基本的なリズムは成長に不可欠な要素であるとともに、子どもたちの将来に対する貯金です。健康診断の結果は改めて特集号で公表します。園でも給食の状況や運動の様子を再考しますが、家庭におかれましてもよく食べ、よく動き、よく寝るの基礎的な習慣を見直していただければ幸いです。